別添３

厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
総括研究報告書

脳卒中後の失語・嚥下障害・てんかん・認知症の実態調査と脳卒中生存者に対するチーム医療の確立を目指した研究

研究代表者 猪原匡史　国立循環器病研究センター脳神経内科　部長

研究要旨

外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の我が国における現状把握を目的として、後方視的にデータを収集し、検討を実施する。その結果、主となる脳卒中後遺症である失語、嚥下障害、てんかん、認知症に関する後遺症の実態や問題点について把握することができ、今後増加することが確実な脳卒中生存者に対する対策や脳卒中後遺症治療の均てん化や健診・保健指導の向上といった厚生労働行政の施策等への活用が期待される。

研究分担者
田中智貴　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
福間一樹　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
齊藤　聡　国立循環器病研究センター
脳神経内科　医長
西村邦宏　国立循環器病研究センター
予防医学･疫学情報部　部長
横田千晶　国立循環器病研究センター
脳血管リハビリテーション科
医長
古賀政利　国立循環器病研究センター
脳血管内科　部長
中奥由里子国立循環器病研究センター
予防医学・疫学情報部
研究員
宮井一郎　社会医療法人大道会森之宮病院
・森之宮病院
・神経リハビリテーション研究部
病院長代理・研究部長
大槻美佳　北海道大学・大学院
保健科学研究院・准教授

Ａ．研究目的

外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の我が国における現状把握を目的として、後方視的にデータを収集し、検討を実施することで、脳中後遺症である失語、嚥下障害、てんかん、認知症に関する後遺症の実態や問題点について把握し、政策提言に繋げる。

Ｂ．研究方法

《集積したデータを用いた実態調査、リスクモデルの作成》
令和５年に集積した脳卒中後遺症のデータを基に、失語、嚥下障害、脳卒中後てんかん、認知症に関する実態調査をまとめる。また、それらのデータを元にリスク因子の同定やリスクモデルの作成を行う。

《脳卒中後遺症に対する具体的な対策の提案》
上述した実態調査やアンケート結果を基に、脳卒中合併症の具体的な予防策や発症した場合の対応、これら「外見からの判別が困難な」合併症の認知度を高める手法、フォローアップ時に注意すべき事項などへの対策について検討し、提言としてまとめる。

（倫理面への配慮）
本研究は、既存のデータを用いた研究であり、オプトアウトにて行われるが、個別同意を取得する代わりに、研究に関する情報を研究対象者等に通知又は公開し、研究対象者等が容易に知り得る状態に置くことで、研究が実施されることについて研究対象者等が拒否できる機会を保障する。

Ｃ．研究結果

令和 5 年度より収集したデータや調査結果を基に解析を行い、脳卒中後遺症の新たな知見を取得できた。失語に関しては、脳卒中後の機能予後、死亡に独立して影響していることが判明し、令和６年 9 月国際学会にて発表、韓国の Asan Medical Center にも協力を依頼し、双方で同様の結果を得ることができ、現在投稿中である。さらに、失語症例のコミュニケーションツールとしてイラストを用いたボードを作成し、国立循環器病研究センターで実際に運用を開始した。てんかんについては Neurology に脳卒中後てんかんの総説と抗てんかん発作薬の効果に関するメタ解析＋システマティックレビューをそれぞれ出版した。さらに出血性病変が発症のモデルの改善にさらに寄与することを米国の Massachusetts General Hospital とともに解明し、新たな脳卒中後てんかん発症スコア（IsCHEMiA スコア)を作成し、現在投稿している。嚥下障害に関しては、昨年度導入した早期栄養プロトコルに関する導入前後の嚥下障害のアンケート調査を解析し、令和 7 年 3 月に脳卒中学会総会にて発表した。認知症に関しては、脳卒中後 3 カ月での認知機能の増悪に関する因子を調査し、年齢と糖尿病があることが判明した。

脳卒中後遺症への対策の提案については、令和６年９月４日に第３回班会議を行い、各後遺症の知見や課題だけでなく、生活期、維持期や看護からの側面における、課題や解決策についても議論を行い、その結果をもとに政策提言書の作成を開始、令和 7 年 3 月 5 日に第 4 回班会議にて内容の確認を行い、令和 7 年４月に「外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の制圧に向けた提言」を完成するこ

とができた。

D．考察

大規模な脳卒中データ、信頼性の担保された各種評価データを国際的に協力することで、脳卒中後遺症の実態調査、リスク評価モデルを作成することができ、信頼性のある成果を出すことができた。さらに、これらのエビデンスは今後、脳卒中後遺症治療の均てん化や健診・保健指導の向上にも結びつくと考えられる。また、今回作成した政策提言を通し、「健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法」に基づき、令和2年10月に閣議決定された循環器病対策推進基本計画に則った施策の推進として、今後増加することが確実な脳卒中生存者に対する対策を講じることが可能であると考えられる。

E．結論

これまで十分に注目されてこなかった「目に見えない脳卒中後遺症」に焦点を当て、その現状把握と新たな課題の抽出、さらには政策提言書の作成を行うことで、脳卒中生存者への課題への取り組みや、新たな研究テーマの創出、均てん化や社会環境の整備へと繋がる成果を得ることができた。

F．健康危険情報

該当なし。

G．研究発表

1. 論文発表

1. Tanaka T, Ihara M, Fukuma K, Mishra NK, Koepp MJ, Guekht A, Ikeda A（責任著者）. Pathophysiology, Diagnosis, Prognosis, and Prevention of Post-Stroke Epilepsy: Clinical and Research Implications. Neurology. 2024,102 (11).
2. Misra S, Wang S, Quinn TJ, Dawson J, Zelano J, Tanaka T, Grotta JC, Khan E, Beriwal N, Funaro MC, Perla S, Dev P, Larsson D, Hussain T, Liebeskind DS, Lin Yasuda CL, Altalib HH, Zaveri HP, Elshahat A, Hitawala G, Wang GY, Kitagawa R, Pathak A, Scalzo F, Ihara M, Sunnerhagen KS, Walters MR, Zhao Y, Jette N, Kasner SE, Kwan P, Mishra NK（共著者）. Antiseizure Medications in Poststroke Seizures: A Systematic Review and Network Meta-Analysis. Neurology, 2025. 104(3), e210231.
3. 田中 智貴, 猪原 匡史（責任著者）. 脳卒中後てんかんと脳血管性認知症、脳神経外科 2024,52(6), p1279-1290
4. 田中 智貴, 猪原 匡史 (責任著者). 脳卒中後てんかんの新展開. 脳神経内科. 2024, 100(2), p138-145.

2. 学会発表

1. Ihara M. Vascular Cognitive impairment. Northern Lights Neuroscience Symposium 2024.9. Finland.
2. Ihara M. Amyloid Load-Modifying Compounds for LMICs. Dementia in LMICs and Brain Ageing 2024.12. Kenya.
3. Tanaka T, et al. Impact of cortical superficial siderosis on seizure control of post-stroke epilepsy. European Stroek Organisation Conference 2024.5. Switzerland
4. Saito S, et al. Efficacy and safety evaluation of type-3 phosphodiesterase inhibitor Cilostazol in mild cognitive impairment. The Alzheimer's Association International Conference 2024.7. US.
5. Tanaka T, et al. Impact of Post-stroke Aphasia on Prognosis after Stroke. Asia Pacific Stroke Conference 2024.7. Australia.
6. 猪原匡史. 認知症と脳卒中.第8回日本脳神経外科認知症学会学術集会.2024.6. 名古屋
7. 猪原匡史. 抗Aβ抗体療法と脳卒中. 第14回日本脳血管・認知症学会総会.2024.7. 岐阜
8. 猪原匡史. 脳卒中後転換の最前線～最新知見に基づいた診断・治療～.第67回日本脳循環代謝学会学術集会.2024.11. 富山
9. 猪原匡史. 脳小血管病と認知症. 第44回日本脳神経外科コングレス総会.2024.5. 名古屋
10. 田中智貴. 脳卒中後てんかん発作コントロールに与える脳表シデローシスの影響. 第57回日本てんかん学会学術集会.2024.9. 福岡
11. 田中智貴. 脳卒中とてんかん. 第57回日本てんかん学会学術集会.2024.9. 福岡
12. 齊藤聡. 脳アミロイド血管症と認知症. 第14回日本脳血管・認知症学会総会.2024.7. 岐阜
13. 齊藤聡. 脳血管と認知症. 第43回日本認知症学会学術集会.2024.11. 福島

H．知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

「外見からの判別が困難な脳卒中後遺症の制圧に向けた提言」政策提言書　2025.4